

編集後記

× 難工作を予想されていた国立病院の移管も最近になつて二三ヶ所の話が意外に進捗して、中でも秋田国立は正式に県立移管と同時に本建築にかかる事になつた。

× 阿部前局長の任期中はもつぱらこの困難な工作時代であつたのだが、黙々として局長席に座つておられたのを思い出すとやはり衛生行政の犠牲である事を考えないわけに行かない。

× 曾田新局長は長らく台北大学の衛生教授であつたが、人も知る衛生統計の第一人者で昨年度行われたWHOの衛生技術者教育を東京にもつて来て各国の専門家を東京に集めたのは我国衛生行政レベルを世界レベルにもつて来た一大ヒットと云われている。統計的理解力によるものかどうか新局長は新任以来、各方面に明解な判断を下して活動しておられるが前局長時代と対称的な空気が出されつつある。前途尙、医療機関整備、健保国保問題、医業分業 48 時間問題等、多難を予想される時に大いに頑張つて貰いたい。本号では、新局長の抱負について巻頭に一文を得る事に成功した、新方針の一端にふれる事も出来るであろう。

× 小沢国立病院課長の後任に尾村療養所課長、その後任に斎藤、後保、岩手県衛生部長が新任したが、いづれも順当の人事と云いたい。斎藤、新課長は戦時中体力局で健民修練の主管として着々新機軸を出していたが、岩手では県下医療機関を総合して、一大県立病院網をデッチあげた医療国営戦線のチャンピオンである。本号によせられた、氏の構想はいずれ国立療養所に話されるであろうが期待してまつ事にしよう。

× 編集委員の一人吉田幸雄君は山形衛生部長に赴任以来衛生行政責任者としての感想を書いてもらう約束になつていたのに着任以来東奔西走、席の暖る暇なしという活動振りだそうだ。たまたに上京しても例の元気のよい病院理論を拝聴するだけであつた。もうそろそろ落ついた頃だと思つてい

た所先日、スキーで負傷したとの報をうけた。学生時代のスキーのリーダーであり、山形へ赴任する時も此の冬はと勇躍した彼も 20 年の空白と、

10 貫のデッドウェートを計算に入れなかつたのは大失敗であつたろう。幸いに軽傷であつたそうだからその間にでも大いに原稿を書いて貰いたい。

× も一人の編集委員小西宏君、本号に通信をよせられた様に米国から、英国に向われたようだ。

本号の出る頃は多分帰朝しておられる事と思うが、病院管理的に見た国営医療は、我々の最も関

心をもつもので氏のお土産を期待する所以である

× 長らく人手不足を嘆じていた病院管理研修所も 28 年の新予算で 4 人の増員が認められたので、今後は活発に動けると思うが、扱そうとなると人物フッ底の嘆を出さざるを得ない。新人同士の出現を期待する事切である。出来れば 1 年位の期間で大学院的研究の出来るジフツを確保したいと思つているが同志の方は遠慮なく申し出て下さい。

× 本号に保険医療の研究を寄せられる大村秀三郎氏は多年保険局で医療の第一人者であつたが、今回医務局に転じられて実際医療者側に立たれる事になつたので、今後もこの種の論文が続々と出る事と思う。保険と医療をいかに兩立するかという事が現下、日本の大問題であるとすれば我々は氏に期待する事が大である。

× 病院管理研修所の熱海補修講座の速記は討論のほんの一部しかのす事が出来なかつた。来会者

100 名越して狭い座敷にすしづめになり乍ら熱心に討論を行つた。この様に同好の士が一堂に会する機会を得られた事は大変よい事だつた。(守屋)

表紙説明

写真は目下建築中の東京厚生年金病院の 2、3 階病棟の病室の一部、縦ガラス張りとならびにバルコニー状の廊下のある点は、新しい試みとして注目される。尚同病院は 4 月一杯で完成し、5 月から診療を開始する予定である。